

## 青海収容所慰霊碑除幕式

新潟県青海町（現・糸魚川市）にあった青海捕虜収容所（東京第13分所）では、終戦までに捕虜60人（米2、英58）が死亡しましたが、戦後69年を経て、捕虜たちが働いた（株）電気化学工業青海工場の一角に慰霊碑が建立され、2014年9月6日にその除幕式が行われました。ちょうど69年前のこの日は、捕虜たちが青海を発って懐かしい故国に向かった記念すべき日でした。

慰霊碑が建立されたきっかけは、2011年に英捕虜の遺族リンダ&ケビン・ニコルス夫妻が同地を訪ねたことです。彼らはここに慰霊碑が欲しいと強く望み、英国大使館の協力を得て電気化学工業に熱心に働きかけ、3年の歳月を費やしてようやく実現にこぎつけたのでした。POW研究会も青海収容所の死亡者リストを提供するなどの協力をしました。特記すべきは、この建設費用の全額を電気化学工業が負担したことです。全国130カ所にあった捕虜収容所のうち、慰霊碑・モニュメントなど何らかの記念物が設置されている所は20カ所足らずですが、多くは市民の募金や個人の負担によるもので、捕虜を使役した企業が費用を負担して建立した例は、私が知る限り石原産業四日市工場（名古屋第5分所）と日本冶金大江山工場（大阪第3分所）だけです。



青海収容所慰霊碑

慰霊碑は、収容所跡地ではなく、同社工場正門近くの駐車場の一角に設置されました。青海駅から徒歩7、8分の場所です。中央に十字架と銘文を刻んだ石碑、その両側に60名の死亡者の氏名（アルファベット順）、階級、認識番号、部隊名、死亡日、年齢を刻んだ石碑が配置されています。銘文は残念ながら英語のみでしたが、和訳すると以下のような内容となります。

「第二次世界大戦中、青海収容所で亡くなった英国・米国捕虜を偲び、死亡・生還した捕虜の苦難を記憶にとどめる。東京第13分所青海収容所は、1943年5月12日、現在新潟県糸魚川市青海2209に所在する電気化学工業株式会社青海工場の敷地内に、連合軍捕虜の施設として開設された。最初は東京第9分所と呼ばれたが、1943年8月1日に東京第7派遣所と改称、1945年8月には東京第13分所と再び改称された。1945年9月に閉鎖。捕虜たちは日本軍の監督下、肥料や他の製品の製造作業に従事した。終戦時、ここには542名（英国432名、米国109名、NZ1名）の捕虜がおり、収容期間中に60名が死亡した。この慰霊碑は捕虜家族、電気化学工業株式会社、東京の英国大使館及びPOW研究会の協力と支援により建立された」



60名の死亡者の名を刻む

除幕式には、青海から生還した英捕虜の家族ニコルス夫妻、また他の3名の英捕虜の家族がイギリス、オーストラリア、ニュージーランドから駆け付け、計21人の捕虜関係者が参列しました。それに加え、英国大使館のヒッチنز大使、アシュクロフト武官他2名、米国大使館のオリアリー武官、外務省欧州局の伊藤審議官、電気化学工業東京本社の吉高社長、ホームズ恵子さん等アガペのメンバー、英捕虜 Sewell の回想録を翻訳された渡辺夫妻、英連邦横浜墓地管理人の小林さんや上越日豪協会の近藤さん、そして POW 研究会の7名等、総勢数十名が参列し、以下の方々からご挨拶がありました。



●吉高紳介電気化学工業株式会社社長：

2011年来日のニコルス夫妻の要請でこの地に慰霊碑を建てるのが計画された。青海工場100年の歴史の中で捕虜収容所があったのは僅かな期間であったが、社員全体でこの歴史を共有し、心に刻みたい。

左より外務省審議官、ニコルス夫妻、英国大使、電化社長

●ヒッチنز英国大使：

戦争で誰もが傷を負った。碑が建立され、誰でもここに慰霊に来ることが可能になった。過ちを繰り返してはいけない。私たちが互いに協力し合っている今の時代から見ると、捕虜の苦難は遠いことのように思えるが、歴史の過ちを認めながらお互いに宥和することに意義があるだろう。

●伊藤直樹外務省欧州局審議官：

日本は英、米、豪、NZと強いきずなで結ばれている。1997年以来、ロンドンの日本大使館では元捕虜とその家族と和解の会を開き、今に至っている。この慰霊碑が平和への道しるべになるだろう。

●Kevin Nicholls、捕虜家族を代表して：

2014年9月5日、今日は青海にとって大変重要な日となった。69年前、ここにいた捕虜たちはきびきびとした足取りで収容所を出て駅に向かった。そこには当時の電気化学の近藤社長が大勢の社員と共に捕虜の見送りに出ている。青海では死亡した60名の犠牲があり、生還者には帰国後の苦労があった。彼ら皆に敬意を払う。日本人も戦中・戦後苦労した。電気化学、英国大使館、捕虜家族そしてその他大勢の人々の協力で慰霊碑建立が実現した。この碑は捕虜、その子供、その孫、そして未来の子孫の為、世界の平和の貢献に役立つだろう。

様々な願いが込められた慰霊碑ですが、惜しむべきは碑文が英語だけであること。この碑には亡くなった捕虜の追悼と遺族への癒しという意味だけでなく、収容所の歴史を多くの日本人に伝えていくという意味もあると思います。そのためにもぜひ日本語の碑文が欲しいところです。

(田村佳子・笹本妙子)